

宇都宮市の各種行財政指標の現況について

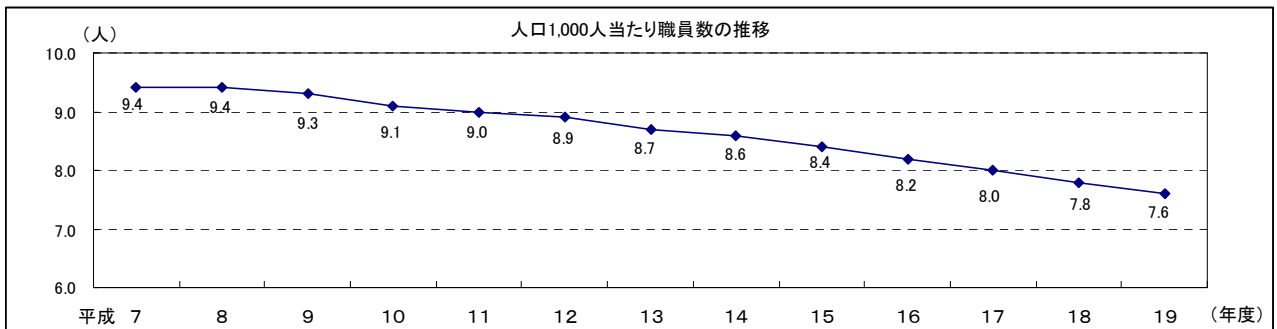
資料 3 の内容も踏まえ、現在の宇都宮市が有する都市としての力を、効率性（職員数）と経済性（財政状況）の観点から、以下の 9 指標に分けて分析・概括する。

1 行政改革の取組成果が直接反映される指標（平成 19 年度の値）

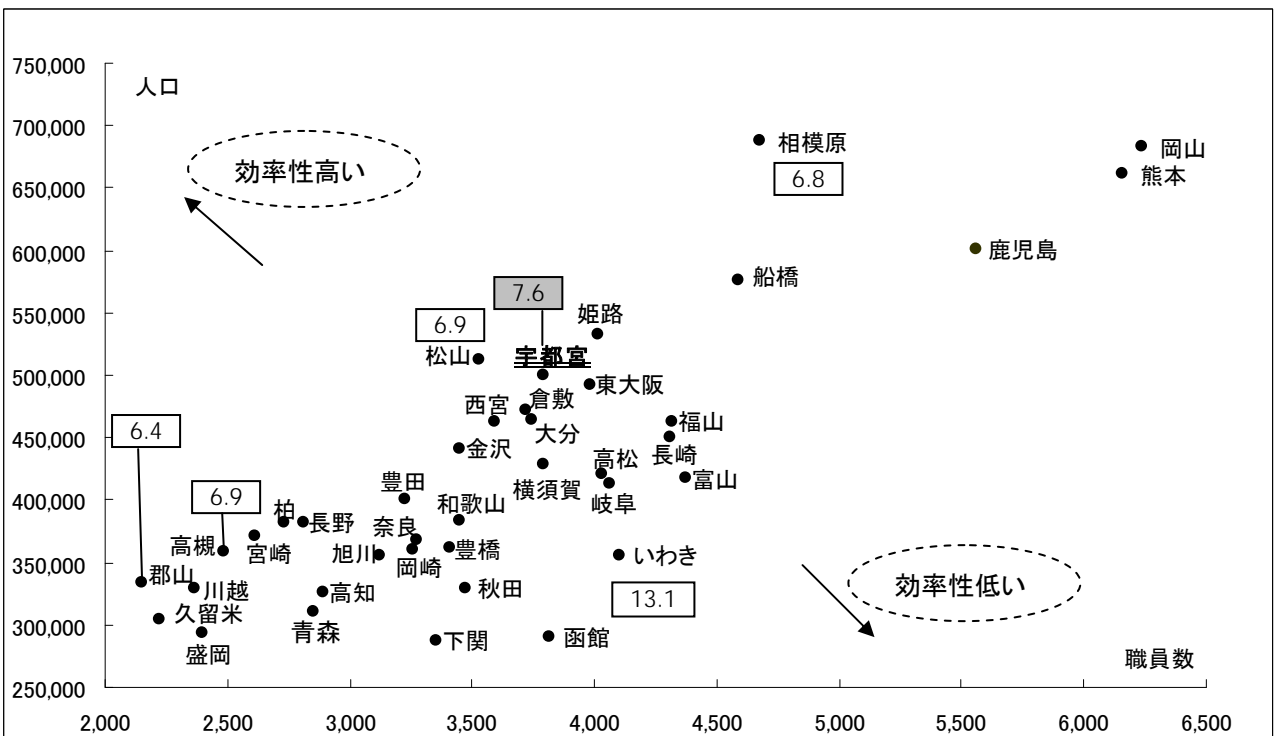
(1) 人口 1, 000 人当たりの職員数

用語の意味	人口 1, 000 人当たりの職員の数		
目安	低いほどよい。数値が高いほど、より多くの職員で市民サービスを展開していることになり、非効率な行政であることを示す。		
本市の現状	7.6 人		
中核市の現状	8.7 人（中核市 39 市の平均）	本市の順位	11 位 / 39 市
分析	本市では、人口規模に比べて、少ない職員で市民サービスが展開されていることが分かる。しかし、6 人台の効率性を確保している中核市もあり、現状に甘んじることなく、引き続き、効率的な行政運営に向けた継続的な取組が求められる。		

【これまでの推移】



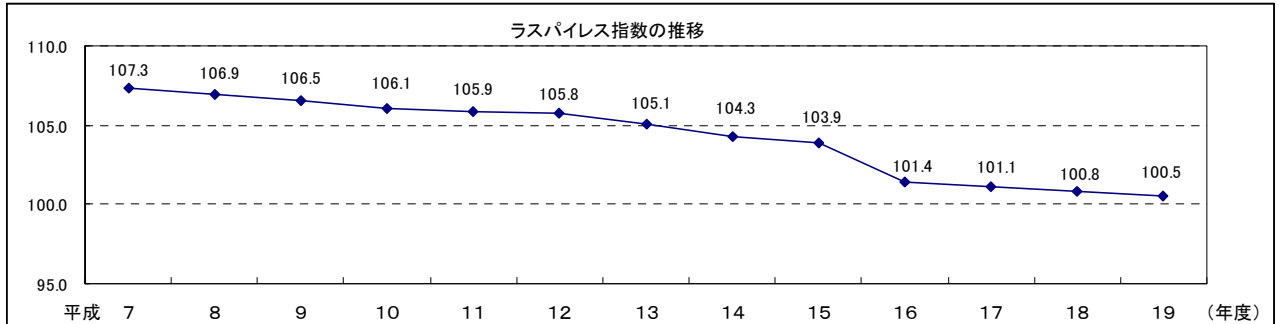
【中核市 39 市の分布図】



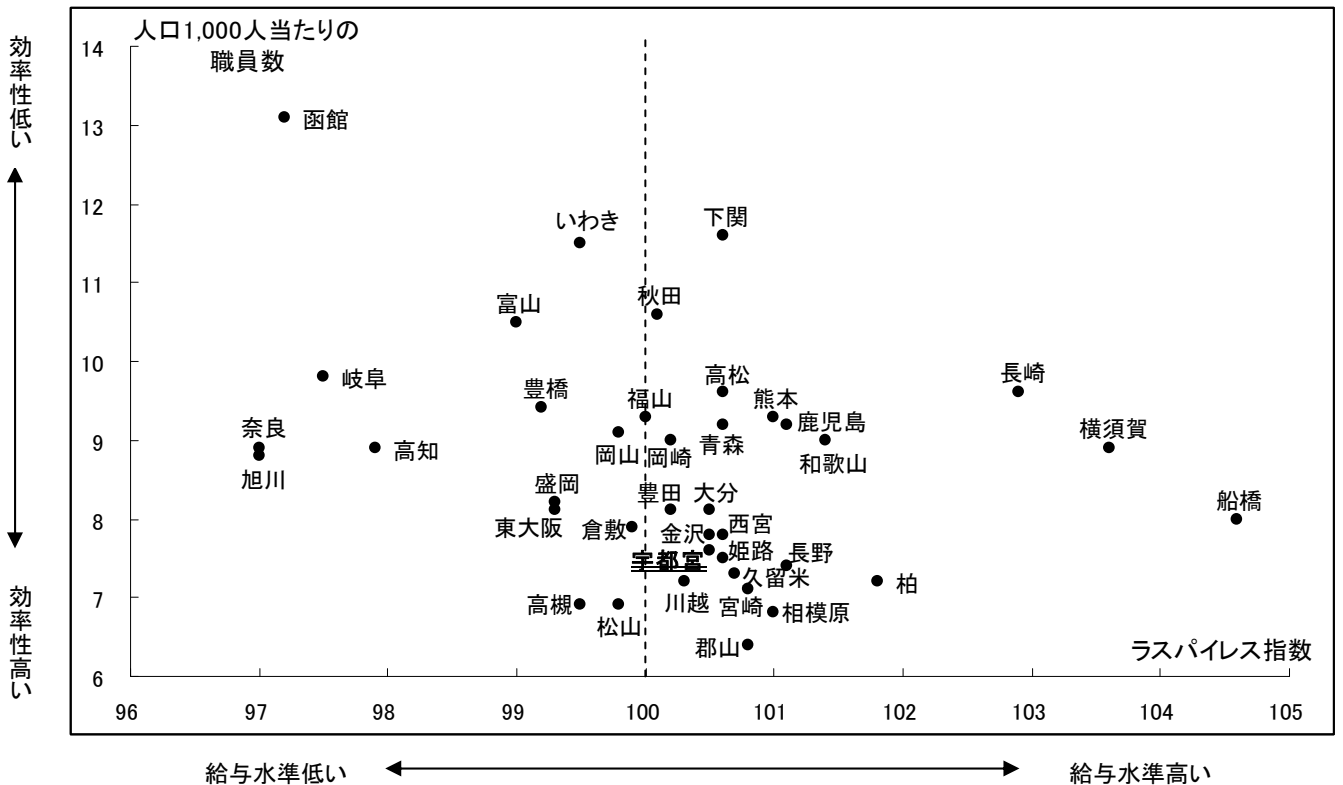
(2) ラスパイレス指数

用語の意味	国と地方公共団体の一般行政職のそれぞれの基本給を、学歴や経験年数を考慮して算出したもので、国を100としたもの
本市の現状	100.5
中核市の現状	100.2 (中核市39市の平均)
分析	本市の指数は、年々低下傾向にあり、職員給与の見直しが着実に進んでいることが分かる。

【これまでの推移】



【中核市39市の分布図】

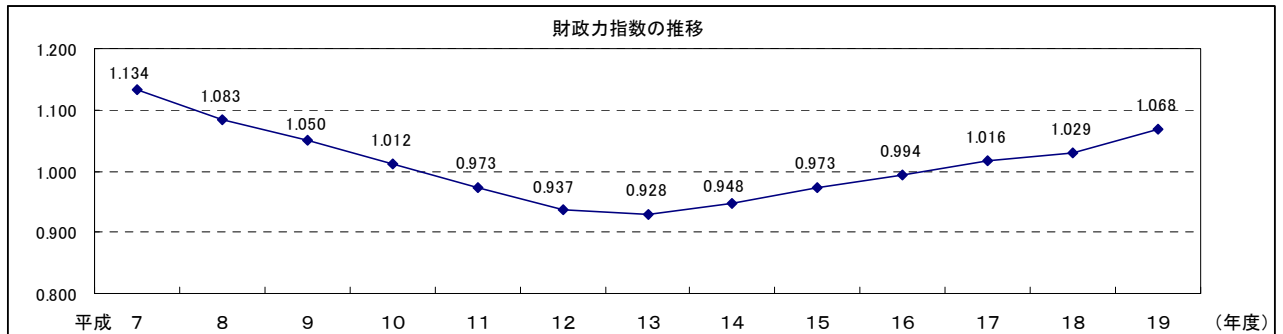


2 行政改革の取組成果と関わりがある指標（平成19年度の決算値）

(3) 財政力指数

用語の意味	標準的な行政活動に必要な財源をどれくらい自力で調達できるかを表わす指数		
目 安	高いほどよい。「1」未満の自治体は、自力での財源確保ができないことを示す。		
本市の現状	1.068		
中核市の現状	0.822（中核市39市の平均）	本市の順位	3位／39市（前年度3位）
分 析	財政力指数1.068は、本市が標準的な行政活動に必要な財源をすべて自力で調達していることを示している。また、指数は年々上昇基調にあるとともに、他の中核市との比較においても、本市の指数は高い水準・順位で推移しており、本市の財政力が高いことが分かる。		

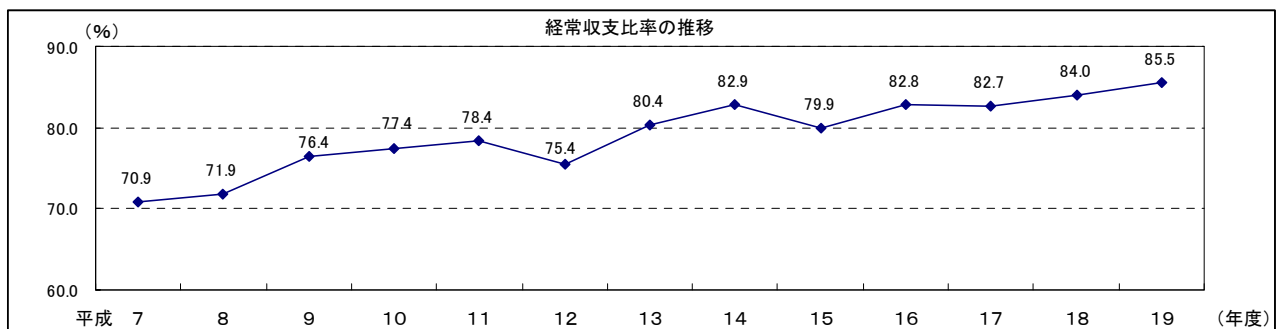
【これまでの推移】



(4) 経常収支比率

用語の意味	毎年度経常的に収入される一般財源が、扶助費などの節減することが困難な経費にどれだけ充当されているかを表わす比率		
目 安	低いほどよい。比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを表わす。		
本市の現状	85.5%（本市が掲げる目標:80%台）		
中核市の現状	91.0%（中核市39市の平均）	本市の順位	4位／39市（前年度5位）
分 析	目標としている80%台を堅持しており、財政構造の柔軟性は高いと言えるが、年々上昇傾向にあり、徐々に財政構造の柔軟性が低下していることが分かる。		

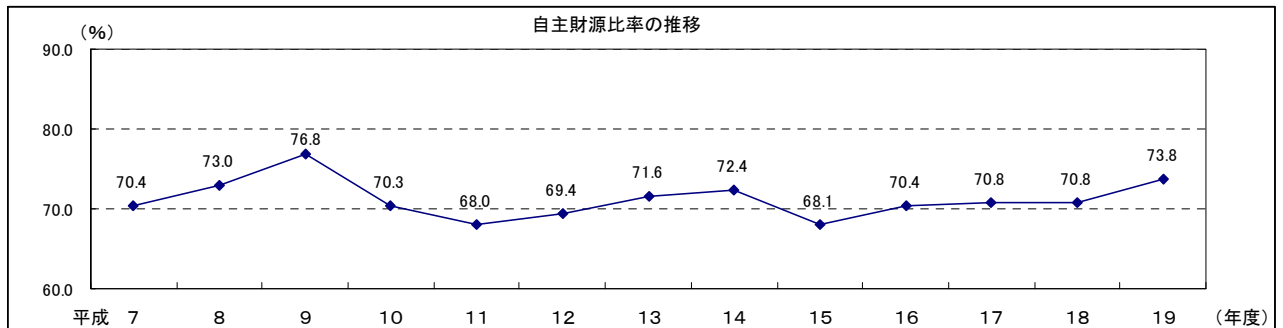
【これまでの推移】



(5) 自主財源比率

用語の意味	歳入全体に対する自主財源の占める割合。 地方自治体が自主的に収入できる財源であり、具体的には市税、分担金・負担金、使用料、手数料、財産収入、寄附金、繰入金、繰越金、諸収入で構成される。		
目安	高いほどよい		
本市の現状	73.8%（本市が掲げる目標：70%以上）		
中核市の現状	60.2%（中核市39市の平均）	本市の順位	4位／39市（前年度5位）
分析	平成16年度からは目標としている70%以上を堅持しており、財政基盤の安定性は高いと言える。		

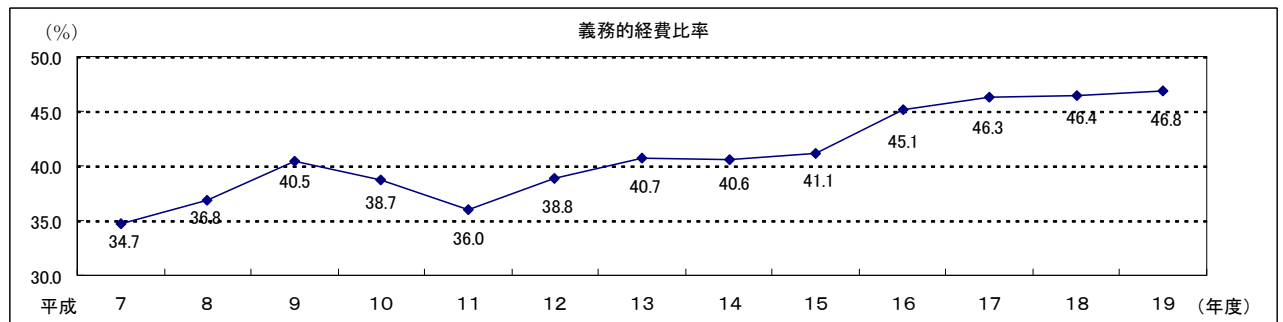
【これまでの推移】



(6) 義務的経費比率

用語の意味	法令により支出が義務付けられ、任意に節減できない経費(人件費、扶助費、公債費等)が、歳出総額においてどれくらい占めているのかを表わす比率		
目安	低いほどよい		
本市の現状	46.8%（本市が掲げる目標：50%以内）		
中核市の現状	52.0%（中核市39市の平均）	本市の順位	7位／39市（前年度8位）
分析	目標としている50%以内を堅持しており、財政構造の柔軟性は高いと言えるが、年々上昇傾向にあり、徐々に財政構造の柔軟性が低下していることが分かる。		

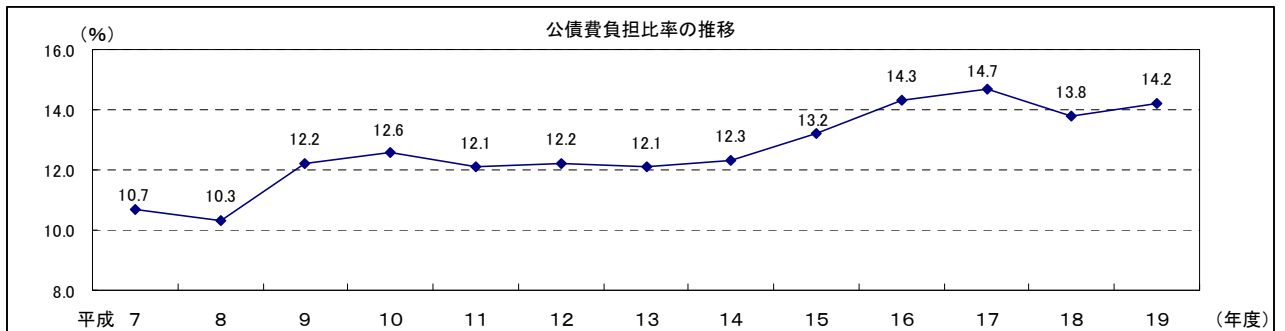
【これまでの推移】



(7) 公債費負担比率

用語の意味	市税などの一般財源がどれくらい借入金の返済に使われているかを表わす比率		
目安	低いほどよい。この比率が高いほど、自由に使える財源が少ないことを意味する。		
本市の現状	14.2%（本市が掲げる目標: 15%以内）		
中核市の現状	17.7%（中核市39市の平均）	本市の順位	9位／39市（前年度10位）
分析	目標としている15%以内を堅持しており、財政構造の柔軟性は高いと言えるが、その値はここ数年、上昇基調をたどっていることが分かる。		

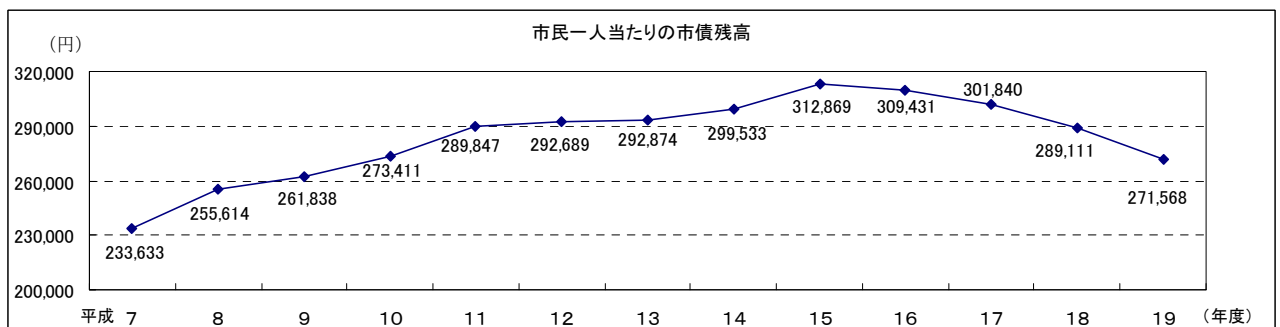
【これまでの推移】



(8) 市民一人当たりの市債残高

用語の意味	借り入れた資金のうち返済が済んでいないものの残高を、市民の数で除したもの		
本市の現状	271,568円		
中核市の現状	399,829円(中核市39市の平均)	本市の順位	6位／39市（前年度7位）
分析	中核市平均と比較して、7割未満の金額に抑えられており、本市の財政構造の柔軟性が高いことが分かる。		

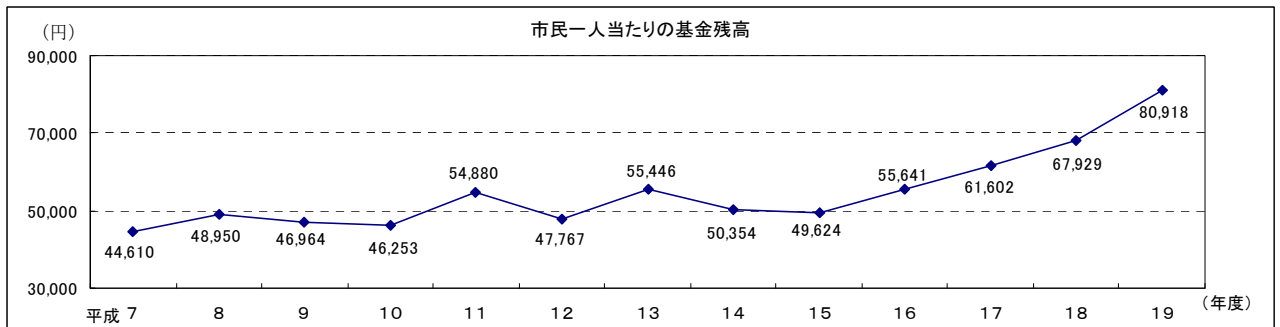
【これまでの推移】



(9) 市民一人当たりの基金残高

用語の意味	地方自治体が、施設整備など、特定の目的のためにあらかじめ確保している資金を市民の数で除したもの		
本市の現状	80,918円		
中核市の現状	45,920円（中核市39市の平均）	本市の順位	4位／39市（前年度9位）
分析	中核市平均と比較して2倍近い額が確保されているほか、金額・中核市中の順位とも上昇傾向にあり、特定目的のための十分な財源が確保されていることが分かる。		

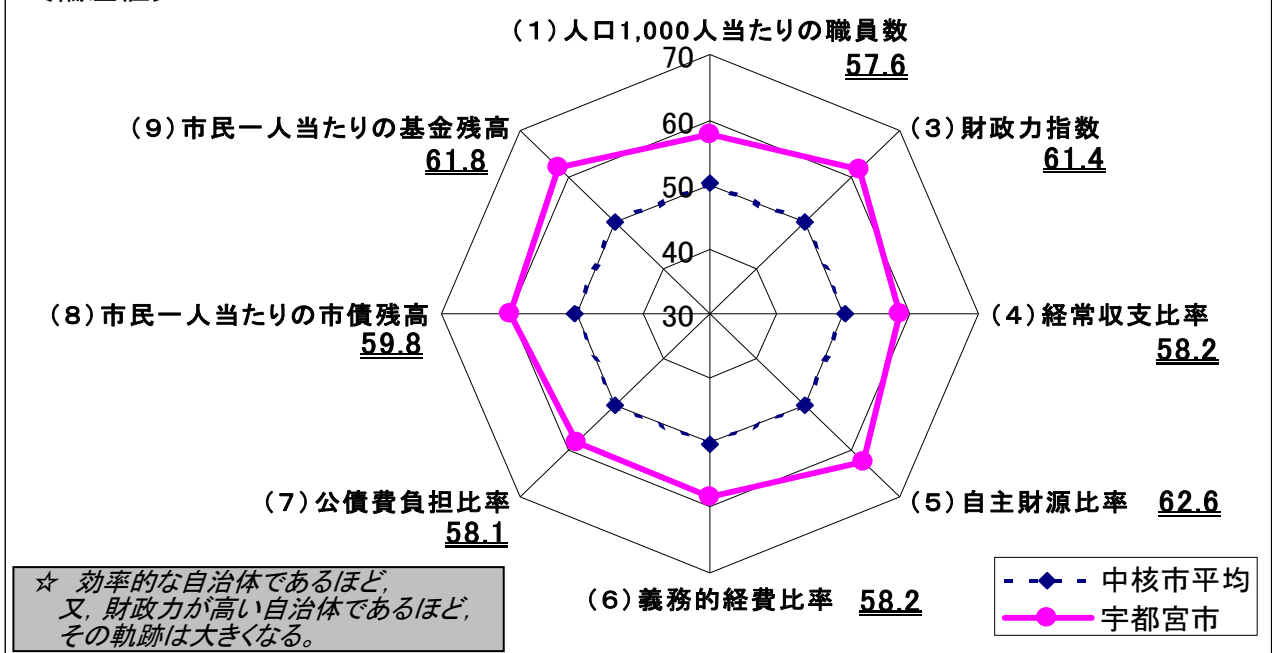
【これまでの推移】



<参考> 中核市39市における、指標ごとの本市の順位（再掲）と偏差値

(1)人口1,000人当たりの職員数	11位／39市	(6)義務的経費比率	7位／39市
(3)財政力指数	3位／39市	(7)公債費負担比率	9位／39市
(4)経常収支比率	4位／39市	(8)市民一人当たりの市債残高	6位／39市
(5)自主財源比率	4位／39市	(9)市民一人当たりの基金残高	4位／39市

〔偏差値〕



(※ 「(2) ラスパイレス指数」については、指数の大小が改革の進捗を反映するものではないため、上記<参考>の2表から除く。)